

令和5年度 学校評価自己評価表 （8月4日）

a ミッション		【校訓】「こころひろく ゆめおおきく」		ふるさとに誇りをもち、自分を愛し、夢を語る児童の育成		ビジョン 【学校教育目標】自ら学び たくましく生きる【学校経営目標】 関わり合い つながりあう せらにし小学校 【めざす学校像】〇一人一人を大切にす学校〇授業を大切にす学校〇地域や家庭を大切にす学校 【めざす児童像】〇自ら考え、自ら学ぶ児童〇ふるさとに誇りをもち児童〇自らを鍛え、自らを管理する児童 【めざす教職員像】〇学校教育目標に向けて協働する教職員〇教育のプロとしての自覚と誇りをもち教職員〇資質・能力の向上に努める教職員〇法を遵守し、公教育の責任を果たす教職員					【育成を目指す資質・能力】 【知識及び技能】知識・技能 【思考力・判断力・表現力等】思考力・判断力・表現力 【学びに向かう力・人間性】主体性・自らへの自信			世羅町立せらにし小学校	
評価計画						自己評価					学校関係者評価			改善計画	
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策 (取組指標を含む)	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ ロ ハ			l コメント	m 改善案
確かな学力	「授業づくり」・「学びのベース」により、主体的に学び、思考力や表現力を高める児童を育成する。	【関わり合う授業づくりプロジェクト】 〇主体的・対話的で深い学びとなるような単元を構成し、課題発見解決学習の充実を図る。	〇「考える」課題・発問を設定し、教師のファシリテート力を高め、児童の発言が主体となるような授業づくりをする。	〇自分たちで学習のめあてとまとめを設定することができた授業の割合(教師の自己評価)りをする。	80%	72.7%		91%	B	〇算数科を中心に、全学年で学習の流れを統一して授業を行った。高学年は自分たちで学習したいことをめあてにすることができる傾向にあるが、低学年は難しい状況だった。					〇低学年は教師と共にめあてやまとめを設定することで、少しずつ自分たちでできるようにしていく。全てを児童にゆだねるのではなく、教師が教えるべきところと子ども達に考えさせるところを明確にし、長期的な目でファシリテートしていく。
			〇算数の授業において、練り上げ場面では、教師は対話の視点を明確にして、「対話の達人」を活用しながら対話の充実を図る。	〇標準学力調査を参考にした自作問題の正答率の割合	70%	75.4%		108%	A	〇「対話の達人」を活用し、授業に対話場面を取り入れたことで、対話する基盤ができている。1学期中に3回、学習した内容に関する自作問題に取り組ませ、平均正答率は75.4%だった。しかし、正答率が70%以上の児童は66.7%だったので、さらに学習を充実させていく必要がある。					〇算数の授業において、練り上げ場面では、カードを活用して対話の視点を明確にしながら対話を取り入れ、児童の学びを深める。また、2学期も自作問題を定期的実施することで、児童の課題を分析しながら、補習を行ったり授業改善をしたりしていく。自作問題の正答率70%以上の児童の割合を高める。(75%以上)
		【関わり合う学びのベースプロジェクト】 〇「読み・書き・計算」などの、基礎学力を定着させる。	〇朝の会において、各学級で「今日のことば」として慣用句や四字熟語などを紹介し、語彙の充実を図る。	〇漢字のテストにおいて、期待正答率を達成する児童の割合	70%	83.9%		120%	A	〇朝会での漢字の書き取りを継続して積み重ねたことが結果につながっている。ただし、正答率70%以上の児童は77.6%だったので、完全に定着しているとは言えない。					〇小テストを継続して行い、漢字の定着を図る。期待正答率を達成しても正答率が70%に満たなかった児童もいるので、正答率70%以上の児童の割合を高めていく。(目標値80%)
		〇読書活動を充実させる。	〇朝会に漢字の書き取り、つばきタイムに計算を継続して行う。	〇計算の個人目標(時間・正答率など)を達成する児童の割合	80%	89.8%		112%	A	〇個人目標を決めて、継続して100マス計算に取り組んだことで成果が見られた。たし算、ひき算、かけ算など、計算のパターンが少なかったので、様々な計算に取り組ませていく必要がある。					〇引き続き、毎日のつばきタイムで計算に取り組む。2週間ごとに個々で目標を決めて、意識しながら取り組ませる。様々な種類の問題を用意し、学年や児童の実態に応じて活用できるようにする。
		〇読書活動を通して月に1回「読書紹介カード」を作成させ、読書に親しむ習慣をつける。	〇読書に対して肯定的な回答をする児童の割合(児童アンケート)	80%	76.4%		95%	B	〇毎週2回の本の貸し出し、毎月1回のせらにし家族の日での読書紹介カードの作成を行った。低学年は積極的に読書に取り組めているが、高学年になるにつれて、読書が苦手な児童が増える傾向にある。					〇図書委員会で読み聞かせの日や読書週間の取り組みを考え、本と触れ合う時間を確保する。また、図書室の整備を行い、児童が本に興味を持つように配置を工夫する。	
豊かな心・特色ある学校づくり	せらにしに誇りをもち児童の育成を行う。 自信・主体性を培う。	【つながり合うふるさとプロジェクト】 〇「道徳科」の授業改善を行い、児童の道徳的価値を高める。	〇本校の重点項目「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を中心とした「道徳科」の授業研修を行い、授業改善を図る。	〇授業の様子を動画に撮り、授業改善を行った教職員の割合	100%	67%		67%	C	〇授業の動画を撮って授業改善を行った教職員の割合は、67%であった。動画を撮っているが、改善のための動画起こしができていないので、夏休み中に行う。					〇授業の動画撮影は、2学期以降も行い、100%を目指す。また、授業終わりに、児童の反応に対する切り返しの発問や声掛け等の良かった点を交流し、次の授業に生かしていく。 〇取り組みの良さを伝える機会を設けるなどの、実践交流を踏まえて取り組みを推進していく。そして、教師の道徳科の授業力を向上させることで、児童の道徳的価値観を高めていく。
				〇道徳アンケート「今住んでいる地域が好きだ」と答える児童の割合(児童アンケート)	90%	97%		108%	A	〇児童アンケートの結果は、97%であった。「とてもそう思う」と回答した児童も86%おり、地域学習やコミュニティースクールの取組の成果ではないかと考えられる。					〇道徳科の地域教材の良さを生かし、児童が「せらにし」のよさを考え、実感できる機会を設ける。また、他教科や総合的な学習の時間との関わりを持たせながら道徳科の授業を行い、児童の道徳的価値や郷土愛を高めていく。
		〇ふるさと学習の推進を行い、せらにしに誇りをもち児童の育成を行う。	〇せらにしのよさをたくさん発見し、せらにしに誇りをもち児童を育てる。(内容例「せらにし小 太鼓」「産業」「環境」「福祉」等)	〇「自分は人の役に立っていると思う。」と言える児童の割合(児童アンケート)	70%	71.4%		102%	A	〇目標値を達成することができた。もともとの数値が7月の達成値を超えていたため、目標値の再設定の必要性がある。目標値を80%と再設定する。					〇これまでのふるさと学習の取組により、自己有用感の高い児童の割合が高いことが分かった。今後、目標値を80%とし、さらなる向上をめざしていく。そのために、児童が学習後、手紙等で感謝の気持ちを伝えるだけではなく、地域の方の声をしっかりと児童に返すことで、ふるさと学習の意味がより深まるようにしていく。
		〇地域に信頼される学校をめざし、コミュニティ・スクールを充実させる。	〇学校からの情報発信や学校に来てもらふ機会を設定し、学校の取組を地域の人に知ってもらふ。子供を地域に返す。	〇「せらにしのよさを実感できる取組ができた。」と言える教職員の割合(教職員アンケート)	80%	100%		125%	A	〇目標値を達成することができた。各学年や学校全体で地域との関わりのある取組が行われていることが成果へつながったと考えられる。また、学校だより、広報誌等で情報発信を行うことができた。					〇継続して学校だより等で情報発信をしていくことで、コミュニティ・スクールとしてのせらにし小学校の取組について地域の方の理解を図る。また、学級便り等で、各学年への情報発信も引き続き行い、保護者の理解、協力が得られるようにする。
健やかな体	自らを鍛え、自らを主体的に管理する力を育てる。	【つながり合う体力づくりプロジェクト】 〇体力・運動能力テストの課題を基にした取組を行い、体力の向上を図る。	〇柔軟性を高める。 ・体育朝会のワイプ、体育の準備運動の柔軟タイム、柔軟運動の家庭学習を行う。 ・「体力カルテ」を作成し、自己の目標を設定させ、記録の向上につなげる。	〇長座体前屈における測定値が全国平均の記録を更新する児童の割合 《体力テストの結果から修正》 ●ボール投げにおける測定値が全国平均の記録を更新する児童の割合	70%	75%		107%	A	〇長座体前屈における測定値は全国平均の記録を更新することができた。					〇投力と筋持久力を高める。 ・準備運動時に上体起こしを取り入れる。 ・外部講師を招き、投げる時の正しいフォームを指導していただく。 ・再測定に向けて、児童個々に目標値を設定させる。
						50%		71%	C	●上体起こし、ボール投げにおける測定値が全国平均の記録を下回っていた。今後は投力と筋持久力を高めていく。					
		【つながり合う食育プロジェクト】 〇食に対する感謝の気持ちを高める。	〇つばきっ子ふれあいファームで、地域の方と農業体験をする。	〇児童アンケート「食べ物や食べ物を作ってくださる方に感謝して食べています。」に対して肯定的回答をする児童の割合	80%	97.8%		122%	A	〇つばきっ子ふれあいファームで、地域の方とさつまいも植えを行った。また、さつまいもが育つように草抜きなどを行っている。					〇収穫に向けて、引き続き取り組んでいく。

【自己評価】A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60 〇

【学校関係者評価】イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。